



学校・町内会・家庭と一緒に
なってクリーンアップ



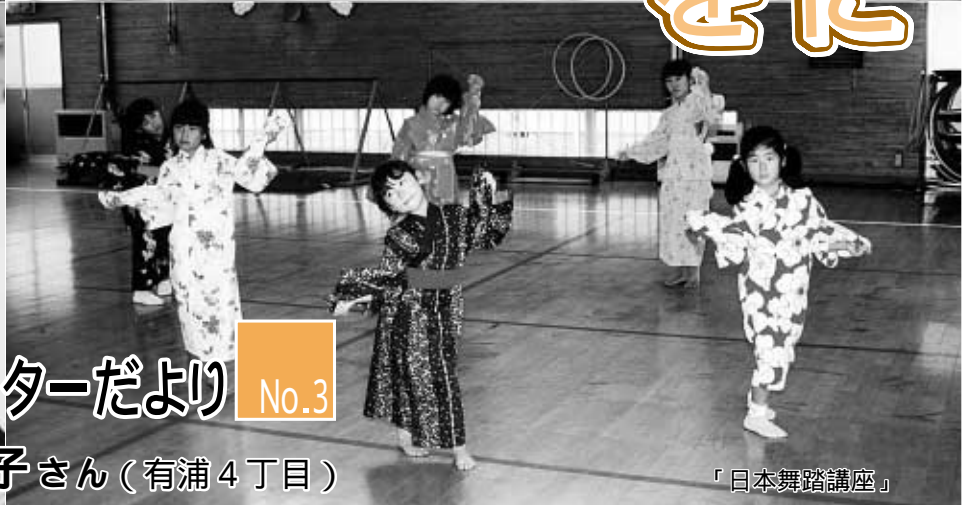
「ヒップホップでゴー！」

子供たちに 生きる力を



広報市民リポーターだより No.3

リポーター 千葉楊子さん(有浦4丁目)



「日本舞踏講座」

主人の転勤で大館市に引越してきて一年半が過ぎました。転勤族の家庭にとって、引越越えてきてしばらくの間は、落ち着かない日々が続きます。でもいつの間にか、いろんな人に助けられ、見守られて生活できるようになりました。地域の方々に支えられ、私たち一家は大館の生活を楽しんでいきます。大館の生活が今、とても充実していて楽しいのは、親も子も楽しめる場所・場面がうまく提供されているからだと思います。そんな大館のすばらしい取り組みを1人でも多くのかたに知って欲しいと思い、取材してみることになりました。

学社連携

私は、昨年の「マナビイ事業(学社連携・融合事業)」で、小学校のサポーターとして小学校のお手伝いをさせていただきました。そこで、学社連携という言葉を知りました。今回は、まず教育委員会社会教育課で、学社連携のことを伺いました。

学社連携とは耳慣れない言葉ですが、拒絶反応を起こさないでください。これこそ大館市教育委員

会が力を入れて行っている事業です。簡単にお話しすれば、教育は学校でというこれまでの考え方を改め、学校・家庭・地域社会が連携して子供たちを教育するということです(次ページの概念図参照)。

今の子供たちは高度情報化時代の中にあり、享楽情報がはびこり、メディア中心の生活環境に慣らされ、心と心のつながりが希薄化してきています。その結果、全国的にも凶悪事件が低年齢化するなど、子供たちを取り巻く生活環境の変化が懸念されています。こうした状況を打開するため、平成10年度国の中央教育審議会では、家庭・学校・地域がこれまで以上に連携し、遊びや自然体験を通して「子供たちの生きる力」を育てることが重要であるという答申をしています。

これを受け、平成14年度から学校の授業が週5日制になり、また、総合的な学習の時間が始まりました。総合的な学習の時間とは、子供たちに地域や家庭とのつながりを深めながら様々な体験をさせ、それを通じて成長させていくというものです。

大館市では、平成15年度から、地域の人々やサークル、団体の教育力を活用しながら学校をサポートしていく学社連携・融合事業と